

# 令和2年度沖縄空手会館に係る指定管理者制度運用委員会 －指定管理者制度モニタリング検証結果－

## 1 委員会の開催について

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による県の緊急事態宣言が発令され、警戒レベル4となったため、委員を招集せず書類審査によりモニタリング実施結果に対する意見聴取を行った。

## 2 書類審査：3人（定員4人）

【委員】元沖縄県立芸術大学学長 宮城 篤正

【委員】沖縄伝統空手道振興会事務局長 池宮城 政明

【委員】公益社団法人沖縄県建築士会会長 金城 傑

## 3 審議概要：

令和元年度モニタリング実施結果

## 4 モニタリング実施結果の概要：

- (1) 維持管理業務（清掃、保守点検等）は適切に実施されており、安全・安心に利用できるよう引き続き適切な維持管理に努め、適宜所管課へ報告・相談を行う。
- (2) 運營業務については、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りながら、展示施設への来客を促すため、展示物の充実及び企画展の広報活動を行う。
- (3) 自主事業については、安定的に運営ができるよう職員の配置の見直しや、利用者及び県民、観光客へ広く周知し、集客を図ること。
- (4) アンケートの結果、施設の利用に関する満足度は高いが、要望を踏まえた改善を図る必要がある。また、アンケート項目の見直しや回収率の向上を図る必要がある。
- (5) 自主事業について実施内容を見直すことで、収益率の改善を図る。

## 5 委員からの主な意見：

- ・開館以来の課題でもあるが、レストランの内容の見直しや利用者増をいかに図るか。
- ・空手体験教室への参加者対策には見直しが必要。
- ・道場施設、展示施設共に利用者数の達成率は低迷しているが、それなりの理由も認められる。
- ・しばらくは続きそうな新型コロナウイルス感染症による影響、Withコロナを意識した事業の検討が必要。
- ・事業収支はマイナスであるものの、新型コロナウイルス感染症による影響も考えられる。収束するか不透明であるが、自主事業についてはいくつか改善点もあるため、状況も踏まえ対応されたい。

- ・教育・文化プラス観光施設ではなかなか収支のバランスが難しい。沖縄空手会館の場合他よりも有利な面があるが、ハードルは決して低くない。県、指定管理者が共に英知を集めて取り組む必要がある。